

銅輸入はスクラップが増加

自動車は生産が住宅着工は増加―貸家、分譲の増加が寄与  
一ケタ減で推移

アルミ橋本健一郎氏リポート①



橋本健一郎氏

■国内概況

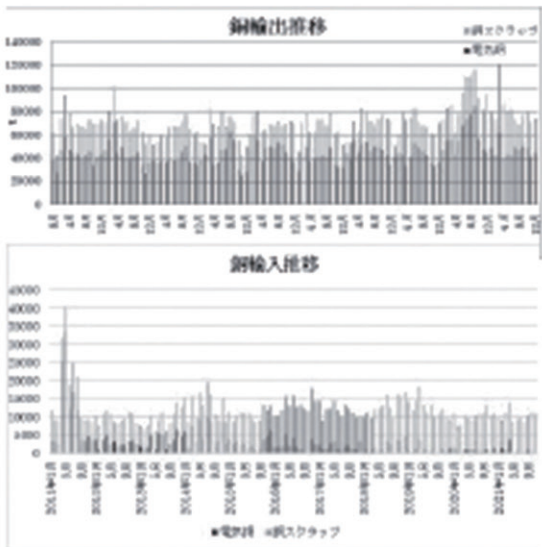
一月前半はオミクロン株の新規感染が拡大し、米国の一日あたり感染者数が

一〇〇万人を突破したこと、ドル高と欧米株式の軟調などのマイナス材料もあったが、十二月の米雇用統計で失業率の低下が示され、米労働市場の改善が続いていることとドル安に支援し、これを好感しLME銅相場はUP、一月十五日時点で九、九〇〇ドル(セツル)と月初価格より二〇八ドルUPの締め。後半は米公開市場委員会(FOMC)後のパウエル議長の会見により大幅利上げ観測が広がったことや、ドル高などのマイナス材料もあったが、ウクライナ情勢を巡る緊迫化による供給不安が台頭したこと、ニッケルの高騰が続く、他メタルも鉛を除いて軒並み上昇したことなどを好感しLME銅相場はUP、一月末日現在、後半スタート価格から三、五ドルUPの九、六七八ドル。二月スタート建値は二、二六万円。

■前月の経済指標  
◆月間のドル/円レート(TTS) 一一六・〇二―一一六・四四(円)。  
◆自動車生産台数 生産動態統計によると、十二月の自動車生産台数は前年比六・八%減の六六万九、五二二台。輸出は〇・五%増。  
◆自動車販売台数 日本自動車販売協会連合会によると、一月の自動車販売台数(軽除く)は前年比二・五%減の二〇万七、二二三台。

◆住宅着工戸数 十二月の新設住宅着工は、持家は減少したが、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比四・二%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比一・五%の減少となった。新設住宅着工戸数は六万八、三九三戸。前年同月比四・二%増、一〇カ月連続の増加。新設住宅着工床面積は五、七〇二千㎡。前年同月比五・九%増、九カ月連続の増加。季節調整済年率換算値では八三万八千戸。前月比一・五%減、二カ月連続の減少。

◆貿易関連指標  
輸出 財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が〇・五%減の四万四、九〇八t、スクラップが四一・二%減の二万九、二六五t。輸入は電気銅が前年比五六・二%減の六四六t、スクラップ二三%増の二万〇、四〇六t。  
■前月の国内指標  
十二月伸銅品生産量は六万二、六四〇トン、前月比七〇%減少したが、前年同月比七二%増加した。また二〇一九年の同月より四七%増加した。  
日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前年比〇・八%減の五万三、八〇〇t。  
■国内概況まとめ  
【自動車生産】 生産動態統計によると、十二月の自動車生産台数は前年比六・八%減の六六万九、五二二台。輸出は〇・五%増。  
【自動車販売】 日本自動車販売協会連合会によると、一月の自動車販売台数(軽除く)は前年比二・五%減の二〇万七、二二三台。このうち乗用車二・七%減、貨物一・三%減、バス一〇・六%増。(六画へ続く)





## LME銅・為替 の今月の焦点 ロシア・ウクライナ債 米中金融政策の動向

(四圍より続く)

【住宅着工戸数】

十二月の新設住宅着工は、持家は減少したが、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比四・二％の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比一・五％の減少となった。

新設住宅着工戸数は六万八、三九三戸。前年同月比四・二％増、一〇カ月連続の増加。

新設住宅着工床面積は五、七〇一平方メートル。前年同月比五・九％増、九カ月連続の増加。

季節調整済年率換算値では八三、八千戸。前月比一・五％減、二カ月連続の減少。

【伸縮品生産】

十二月伸縮品生産量は六万二、六四〇トン、前月比七・〇％減少したが、前年同月比七・二％増加した。また二〇一九年の同月より四・七％増加した。

前月と同様に自動車と半導体向けの生産が好調だった。住宅関連の設備機器向けの需要も好調だが、部材調達難から一部のルームエアコンで減産などの曇りの情報も聞こえてきている。

品別別では、銅糸は同比一五・五カ月連続のプラス。ディスクリートを含めた車載向け半導体が好調を牽引している。果敢も必要の再来によりデジタル家電向けの需要も好調である。自動車挽回生産に向けた在庫積み上げを継続中。

黄銅棒は同比一〇・一カ月連続プラス。住宅設備機器関連がリフォームに支えられて回復基調が続く。

【電線出荷】

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前年比〇・八％減の五万三、八〇〇t。

このうち国内〇・七％減、輸出が二・五％減。

【輸出】

電線輸出が〇・五％減の四万四、九〇八t、銅スクラップが四・二％減の一万九、二六五t。

【輸入】

電線銅が五六・二％減の六四六t、スクラップが一三％増の二万〇、四〇六t。

【回復】

・十二月の自動車生産が六・八％減、一月の国内販売台数が前年比二二・五％減と、生産、販売ともに減少。半導体以外の中国からの部品供給の遅れからとのこと。

ただ、十二月の生産台数の減少幅が引き続き一ケタ減にまで落ちており、今後の回復に期待。

・十二月伸縮品生産量は六万二、六四〇トン、前月比七・〇％減少したが、前年同月比七・二％増加した。また二〇一九年の同月より四七

％増加した。

前月と同様に自動車と半導体向けの生産が好調だった。住宅関連の設備機器向けの需要も好調とのこと。

部品調達遅れからの生産減に歯止めがかかるとは注目。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前年比〇・八％減の五万三、八〇〇t。

このうち、国内〇・七％減、輸出が二・五％減と、国内、輸出ともに減少。

今後さらに減少するか注視。

・銅輸出は電線、スクラップともに内需旺盛に伴い減少。

・銅輸入については、銅糸は割高感から減少、スクラップは内需旺盛から増加。

【スクラップ費況予想】

沈没(二次開採)在庫は銅建値が一八万円から二二〇万円と、結果的に高値安定であった。

ただ、コロナによる生産減からのスクラップ発生減により、出物が無く在庫薄。

需要面に関しては、前月に続き中国の部品調達遅れからの自動車生産、販売の大幅減少傾向があるが、伸縮品に関しては挽回生産に向けた在庫積み上げから需要は旺盛。

仮に急落してもその価格での販売に躊躇する間屋も多く、定期で入らないメーカーでは高値買いの傾向が今後も続く。

【LME・為替予想】

今月は

① ロシア、ウクライナ情勢

② 米中の金融政策の動向

に左右される

① に関しては、一触即発とも思われる報道も一部ではあるが、正面切つての戦争でロシアが勝つ可能性はなく、さりとて引き下がるわけにもいかず、当面はお互いの引かない演出が続くのでは？

② に関しては

中国に関しては、北京オリンピック終了後、経済再生のための生産再開、金融緩和が行われるのでは。

米国に関しては、FOMCで三月に金融引き締めを行うことを示唆していること、インフレが米市民の生活に影響し出していることから、引き締めは行われるのでは。

これらを踏まえた二月の銅価格は、九、五〇〇〜一〇、五〇〇ドル(セツル)との予想。ドル円は二〇円〜二五円、TMM台を予測。

銅建値に関しては、一〇九万〜一二五万円程度と予測している。